

「故中曽根康弘」合同葬儀

頭号師団



発行元
第1師団司令部
総務課広報班

第1師団
ホームページ
QRコード



師団長要望事項

楽しく全力を出そう！
喜んで全力を出させよう！

頭、海上自衛隊東京音楽隊の「国の鎮め」が

大庭師団長ら陸海空自衛隊が参列



岸防衛大臣による激励



参列部隊と調整する第1部人事第2班長



御遺骨に対し敬礼をすると列部隊（大庭師団長）



黙とうをすると列部隊



奏楽を実施する海自東京音楽隊



弔銃を実施する第302保安中隊

故中曽根康弘元首相の内閣・自由民主党合同葬儀が10月17日午後、グランドプリンスホテル新高輪国際館パミールで営まれ、自衛隊から大庭師団長（指揮官）以下陸海空自衛隊員約270名が、と列、儀じよう、奏楽を行った。当日は、旅立たれた故人

に対する悲しみのような涙雨が降った。と列隊が前進する前、岸防衛大臣が陸海空自衛隊の控室を訪れ、参列部隊に対し激励された。その後、大庭師団長をと列隊長とし、第34普通科連隊（連隊長 深田一佐）と海空自衛隊がグランドプリンスホテル新高輪国際館パミール敷地入り口から玄関付近までの沿道に整列し遺骨を出迎え、午後2時すぎ合同葬儀が行

われた。冒頭、海上自衛隊東京音楽隊の「国の鎮め」が流れるなか参列者全員が1分間の黙とうをささげた。式は各界代表の弔辞、天皇皇后両陛下のお使いのご拝礼、秋篠宮皇嗣同妃殿下の御供花、更に参列者の献花が続き、生前の中曽根元首相の功績と人柄をしのび、冥福を祈った。

ご遺骨が式場を退場となった午後3時すぎ、34普通科連隊長をと列部隊指揮官とし、34普通科連隊員と海空自衛隊員ら25名が式場中央に相對して整列、式場をあとにする遺骨を見送った。

第1次師団訓練検閲を実施 3個部隊の教育訓練の成果を評価

第1師団は9月18日

した。

から27日までの間、北富士・東富士演習場において第34普通科連隊、第1高射特科大隊及び第1特殊武器防護隊に対し、教育訓練の成果を評価するとともに、その進歩向上を促すことを目的として「令和2年度第1次師団訓練検閲」を実施

関連項目とし、師団主力の決戦に寄与するための作戦を焦点として各種行動を検した。

訓練検閲実施にあたり統裁官である師団長は「自ら考え、実行せよ」を要望した。

関連②③④面



統裁官訓示を受ける受閲部隊



訓示を述べる統裁官



戦車壕を視察する統裁官



命令下達を視察する統裁官

第1・4中隊訓練検閲 第1普通科連隊

第1普通科連隊は10月19日から30日の間、東富士演習場において、教育訓練の成果を評価す



警戒中の機関銃手



るとともに、その進歩向上を促すことを目的として第1中隊（坂本中隊長）及び第4中隊（鬼塚中隊長）の訓練検閲を実施した。

両中隊は寒暖差が激しい霊峰富士の下、約40

鉄条網を構築中の隊員

検閲に参加した隊員は「改めて自分たちの足りない部分を発見することができた。検閲で得た教訓事項を踏まえて精進し、首都防衛の頭号

令和2年度対空実射（HMG）訓練 第32普通科連隊

連隊の隊員としてのプライドを持ち、訓練に邁進していきたい」と話した。



射撃をする各組

第32普通科連隊は連隊長長 木場1佐を担任官として、10月11日から27日までの間、青森県六ヶ所対空射撃場において、令和2年度対空実射（HMG）訓練を実施した。本訓練は32



狙いを定めて射撃

図る目的で実施した。訓練は大宮駐屯地から約800キロの長距離機動訓練から始まり、15日より射撃を実施した。本訓練に参加した32普連4中隊 長峰3曹は「限られた射撃機会の中で練度を向上するために、他の隊員の射撃を観察し、自身の射撃に反映させるとともに、各部隊の隊員とミーティングを重ねて建設的な意見を取り入れていくことで更なる練度向上に繋げた。射撃時は硝煙の影響で目標が見えにくくなる時もあったが、組長の的確な誘導により目標を捉え追従することができた。今回の経験を活かし中隊で後輩に指導できるように練度向上に努めたい」と話した。

令和2年度前進観測・実射競技会 第1特科隊

第1特科隊は10月4日から5日の間、東富士演習場において射撃練度の進歩向上、中隊の団結の強化及び士気の高揚を図る目的で「令和2年度前進観測（FO）・実射競技会」を実施した。

令和2年度第1次師団訓練検閲 第34普通科連隊

第34普通科連隊は9月18日から27日までの間、北富士・東富士演習場において「令和2年度第1次師団訓練検閲」を受閲した。訓練検閲は約40キロの徒步行進に引き続き、約4日間の防

において第5中隊が、戦闘前哨として敵の攻撃を警告した。主戦闘地域は第2中隊、第3中隊及び第4中隊が、後方地域では第1中隊及び前方地域から後退した第5中隊により、敵機械化部隊の攻撃を阻止、3日目の夕

状況を終了した。優秀隊員に選ばれた第5中隊 瀬戸3曹は「戦闘前哨として、味方主力に対して時間の余裕を獲

得することができた。また分隊の展開地域が広く、情報の共有を図ることの難しさを本検閲で改めて実感した。今後は本検閲

令和2年度第4回連隊野営訓練 第1後方支援連隊



車両を整備する第2整備大隊

第1後方支援連隊は10月18日から25日の間、東富士演習場において「令和2年度第4回連隊野営訓練」を実施した。本訓練は師団の陣地防衛における後方支援連隊の一連の行動について、連統状況下で訓練を実施し、野外における兵站・衛生支援、警戒及び自衛戦闘における練度の維持・向上を図る目的で、前段訓練部隊（本部付隊、第2整備大隊、補給隊）と



担架搬送をする衛生隊

後段訓練部隊（第1整備大隊、輸送隊、衛生隊）に区分し、効率的な練成を図るとともに、確実な教訓収集を実施した。また、新配置隊員等に対する



射撃競技会に臨む隊員

また本競技会を通じて1月に実施する中隊実射訓練検閲に向け、射撃練度の向上を図った。



弾着を観測する隊員

各中隊情報・観測、射撃指揮、戦砲隊の射撃の総力を集結し、正確かつ迅速な観測及び射撃の精度を競った。その結果、FO競技会で第1中隊が、実射競技会で第3中隊がそれぞれ優勝した。

第2回大隊訓練及び補給小隊検閲 第1戦車大隊

第1戦車大隊は9月18日から24日の間、北富士演習場等において「第2回大隊訓練」を実施した。この際「補給小隊訓練検閲」を併せて実施し、教育訓練の成果を評価した。



燃料を積載する補給小隊

補給小隊は、夜間における車両行進に引き続き、北富士演習場に進入後は速やかに集結地を占領、糧食、燃料及び弾薬集積所を構築する等、大隊段列地域の態勢を整えた。隊員の基礎動作においては、敵偵察部隊への対応、対特殊武器防護の一連の動作について確認するとともに、部隊の基本行動として、師団段列の燃料を第1中隊に速やかに交付する等、大隊における補給・整備活動について確認した。



戦車掩蓋掩体を構築する隊員

大隊訓練においては本部の指揮所を簡易掩蓋掩体で構築するほか、演習場整備器材（ザウルス）を活用した掘開要領について練度向上を図った。また第2中隊は、ライナープレートによる戦車掩蓋掩体の構築において、施設科合同訓練で得た知見を活用するとともに、事前にライナープレート

令和2年度第6回大隊訓練 第1通信大隊

第1通信大隊は10月26日から31日までの間、東富士演習場において徒步行進、通信所等の築城について演練するとともに、新配置隊員の練度向上を図ることを目的に「令和2年度第6回大隊訓練」を実施した。

本訓練は、師団訓練検閲受閲前の最後の大隊訓練として、昼夜間における徒步行進約30キロに引き続き、集結地から師団防衛準備のためのシス



徒步行進をする隊員



シェルターの埋設



指揮所の開設

令和2年度第5次大隊野営訓練 第1施設大隊

第1施設大隊は9月13日から30日の間、東富士・北富士演習場に



補給幹線道路を整備する交通小隊



簡易測量をする偵察班



師団検閲における陣地構築

訓練を実施した。本訓練では直轄小隊（偵察班及び交通小隊）の訓練検閲を行うとともに、令和2年度第1次師団訓練検閲に参加し、協同部隊として防衛における施設支援の練度向上を図った。

偵察班は、師団の全般支援に任ずる施設大隊の偵察班の行動（状況に応じた施設偵察）を、交通小隊は、師団の全般支援に任ずる施設大隊の交通小隊の行動（被支援部隊の要求に合致した施設作業を検し、部隊の教育訓練の成果を評価するとともに、その進歩向上を促した。

令和2年度第1次師団訓練検閲 第1高射特科大隊

第1高射特科大隊は9月18日から27日まで、東富士・北富士演習場において「令和2年度第1次師団訓練検閲」を受閲した。

この際、対空情報の獲得及び対空戦闘の実施にあたっては、第2高射特科群の協力を得て情報共有のネットワークを構築し、師団の作戦地域に近接する敵航空機の情報を速やかに把握するとともに、適時適切に戦闘団を

有のネットワークを構築し、師団の作戦地域に近接する敵航空機の情報を速やかに把握するとともに、適時適切に戦闘団を



通信アンテナを設置



対空戦闘中の近SAM手



短SAMの対空戦闘準備



汚染車両を検知する隊員

令和2年度第1次師団訓練検閲 第1特殊武器防護隊

第1特殊武器防護隊は9月18日から27日までの間、北富士・東富士演習場において「令和2年度第1次師団訓練検閲」を受閲した。訓練検閲は約30キロの徒歩行進に引き続き、



対空戦闘をする隊員

速やかに師団除染所を開設して支援態勢を確立した。また敵の特殊武器攻撃に際しては、部隊及び作戦地域の汚染状況を速やかに偵察するとともに汚染地域を除去し、部隊の被害を局限して師団の作戦に寄与して任務を完了した。

優秀隊員に選ばれた除染小隊 板坂3曹は「化学陸曹として、人員用除染所の開設、運営を実施し、汚染した隊員が早期に戦闘復帰するため、確実な除染をすることに努めた。今回の検閲を糧に、より確実な人員除染所の開設・運営を目指したい」と話した。



第3景で歌を披露

第1音楽隊は10月24日、板橋区立文化会館において「第36回ふれあいコンサート」を実施した。実施にあたり、コロナウイルス感染症対策として、会場の収容定員人数を半分以下にしてソーシャルディスタンスを確保したところから、例年1回公演のところ2回公演とし、

第36回ふれあいコンサート 第1音楽隊

第1音楽隊は10月24日、板橋区立文化会館において「第36回ふれあいコンサート」を実施した。実施にあたり、コロナウイルス感染症対策として、会場の収容定員人数を半分以下にしてソーシャルディスタンスを確保したところから、例年1回公演のところ2回公演とし、



ソロパートを演奏した佐野3曹（左）

田3曹・長岡3曹のコーラスの下、森本3曹が歌を披露した。第4景においては朝霞振武太鼓とともに、アニメ鬼滅の刃の主題歌「紅蓮華」を演奏し、その迫力により、さらに観客を魅了した。第5景では「モリコーネ・パライス」の曲でサクソフォン担当の佐野3曹がソロパートを演奏、クラシックの世界観に観客を包み込んだ。最後に「希望の歌」交響曲第9番」を演奏した。

多くの方々に楽しんで頂いた。本コンサートは第1景から第5景の構成で行い、第2景はらっぱ隊との演奏、第3景において中島みゆき作曲の「時代」を橋元1曹・遠藤2曹・平

をもち、第36回ふれあいコンサートはフィナーレとなった。観客からは「5つの構成がイメージ通りの曲で、とても分かりやすく感動しました」との感想が寄せられた。

サクソフォンを担当した佐野3曹は「音楽には人の心を動かす力があると思います。コロナ禍の大変な時期でしたが、これからの明るい希望への願って思いを込めて演奏しました。この気持ち、足を運んで下さったお客様に、少しでも届いていければ嬉しく思います」と本コンサートの思いを話した。



上陸前の偵察を訓練

第1偵察隊は10月12日、朝霞駐屯地において隊の任務遂行能力の向上を図る目的で第2小隊長

令和2年度水路潜入訓練 第1偵察隊

を担任官とし、31名の隊員が参加して「令和2年度水路潜入訓練」を実施し、水路潜入概説、上陸前の偵察等について練成した。

本訓練は5個組を編成して、実施と研修をローテーションで行い、へん水、漕艇、上陸前の偵察上陸を区分して訓練した。その後、ボートの転覆から復旧するための一連の行動を訓練し、所望の成果を収めて本訓練を終了した。



転覆したボートの復旧訓練

令和2年度気象庁火山観測支援 第1飛行隊



ヘリ搭乗前の教育を行う隊員



三宅島周辺を飛行

第1飛行隊は9月29日、気象庁の依頼に基づき東京都三宅島にて「令和2年度気象庁火山観測支援」を実施した。

隊は立川飛行場にて気象庁の職員を多用途ヘリコプター（UH1J）に搭乗させ、三宅島飛行場へ推進し、三宅島の防災職員を加え、約2時間にわたり島周辺及び火口付近を飛行して、気象庁の火山観測に寄与した。

本任務を初めて実施した副操縦士の濱口2尉は「事前に気象庁の職員と具体的な観測要領や安全管理について綿密に認識共有等を図り、当日の飛行においては安全かつ確実に気象庁の火山観測に寄与できたと思います。」と話した。

令和2年度秋季東・北富士演習場定期整備 第1師団司令部付隊



機動路等整備をする隊員

1師団司令部付隊は11月9日から17日までの間、北富士演習場において、演習場機能の維持・向上及び長期安定使用に寄与する目的で「令和2年度秋季東・北富士演習場定期整備」を実施した。

排水設備整備、機動路整備（場内清掃等）及び管理施設等整備を担当し、整備任務を完了した。



追悼の辞を述べる執行者

師団は10月31日、練馬駐屯地において東京都市圏防災隊員追悼式を実施し、90柱の殉職隊員に対し、追悼の誠を捧げた。追悼式は、殉職隊員の遺族、東京都知事代理小林危機管理監をはじめとする来賓、陸海空の自衛官が参列し、厳かに執り行われた。参列者は第1普通科連隊儀礼隊の捧げ銃に合せて第1音楽隊が吹奏する『国の鎮め』が流れる中、拝礼、黙とうを捧げた。次に執行者と来賓代表の東京都知事代理危機管理監、東京都防衛協会会長代理、武内理事長が追悼の辞を奉じ、御霊の功績をたたえ、ともに冥福を祈った。執行者は「私どもは国家のために立派に使命を果たされた御霊の尊い志を受け継ぎ、今後とも、陸・海・空自衛隊の心をひとつにして、事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負託に応えるべく、全身全霊で職務に邁進することをここに固く誓います」と追悼の辞を述べた。引き続き、献花、追悼電文披露、遺族代表挨拶、拝礼を行い、最後に弔銃を行い、式は終了した。

「東京都殉職隊員追悼式」 哀悼の誠を捧ぐ

師団は10月31日、練馬駐屯地において東京都市圏防災隊員追悼式を実施し、90柱の殉職隊員に対し、追悼の誠を捧げた。



防災功労者表彰を受賞する師団長

師団長は9月4日、首相官邸で行われた防災功労者表彰式に参加し、昨年の台風15号、19号に伴う災害派遣活動の功績として、第1師団災害派遣部隊及び協同・支援部隊を代表して安倍内閣総理大臣から表彰された。防災功労者表彰とは災害時における防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備について顕著な成績を挙げ、又は功績があった者を対象にした内閣総理大臣からの表彰であり、師団としては4年ぶりの受賞となった。

「防災功労者表彰」 内閣総理大臣より表彰



内閣総理大臣より受賞した表彰状



1普通科連隊による弔銃



1音による奏楽



第1飛行隊



最先任上級曹長

陸曹長 小川 賢二



空中消火訓練



通信装置設置訓練



若年隊員への対空戦闘訓練

これからの将来を担う若年隊員のために、ベテラン、中堅隊員が教え導き、冒頭でも述べたように、それぞれの職務において連携し、任務完遂に努める若年隊員が成長してくれることを切に願います。

私もここまで来るのに決して平坦な道を歩んできた訳ではありません。失敗や経験を色々としてきました。当時の上司や先輩達ばかり、ハラハラしていたのではと思います。我慢できずに私から整備作業を途中で取り上げ、自分で行う先輩もいました。そんな未熟な私に最後まで作業をやらせてくれた先輩もあり、最後まで成し遂げた時の充実感、今でも忘れられません。ほとんどの方が色々な失敗や経験を積み、上司、同僚、先輩等の力を借りながら成長してきたと思います。

第1飛行隊は師団唯一の航空科部隊として1都6県の防衛警備等を担当し、日夜各種任務に励んでいます。隊は多用途ヘリコプター「UH-1J」を常時1時間以内に飛行できるように、待機態勢を維持しています。飛行隊としてヘリコプターを飛行するには、操縦、整備、通信、隊本部及び管制気象隊の管制、気象等の支援を受けつつ、それぞれの部署が連携し、一つにならないければ任務完遂はできません。この際、連携するためには訓練と相互に信頼し合える人間関係が重要であり、一番大事なのは、やはり「人」を育てることだと思います。技術及び心を含めた「人づくり」が重要なのです。どんなに高性能な装備品があっても、それを運用、使いこなす「人」がいなければその機能を最大限発揮できません。昭和や平成初期入隊の隊員と比して、最近の若者は変化してきていると感じ、「最近の若者は…」と聞いたことがあるセリフをときどき耳にする等、戸惑いを隠せないベテラン及び中堅隊員もいると思います。昭和入隊の私も若い時によく言われましたが、いつの時代でも言われていることではないでしょうか。人や時代背景は常に変化し続けています。その変化に気が付かない、もしくは、目を逸らしたりしてはいませんか？目まぐるしく環境が変化して行く中、次の時代を担う「人」を育てなければなりません。基本的に今も昔も若者は変わっていないと思います。多くの若い隊員はやり甲斐や充実感を求めている、「人のために役立ちたい」という気持ちがあり、少しでも早く先輩に追いつきたい一心で、一生懸命頑張っています。危く見てもらえない、自分でやった方が早いなどと、自分の都合を優先するあまり、やる気のある若い隊員の可能性を消滅させないように、ギリギリまで我慢し、責任を果たす機会を与えられたらと思います。



「結婚式を終えて」

第1高射特科大第隊 指揮情報中隊 伊藤3曹 妻

結婚式にて幸せな二人

私は令和2年3月16日、松山駐屯地所在の第14高射特科大隊から第1高射特科大隊指揮情報中隊に配属になった伊藤3曹です。妻とは、平成30年に千葉県の高射学校入校中に知り合い、約2年間、愛媛県と千葉県という遠距離の中、お互いの理解を深め結婚を誓い合うようになりました。静岡県に異動をして、6月に結婚式を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期し、10月25日無事に結婚式を迎えることができました。

これからの様々な困難等あると思いますが、2人で力を合わせて乗り越えていきたいと思います。

戦没者の冥福を祈念 硫黄島で日米合同慰霊

第34普通科連隊は10月24日、硫黄島において硫黄島協会及び米国硫黄島協会（元米国退役軍人会）が共催する「日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式」に防衛省自衛隊を代表する旗衛隊として参加した。

例年は3月に両国の遺族や退役軍人ら約300人が参加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で10月に延期され、規模も縮小となり日本政府関係者等、日米合わせて約30人で行われた。追悼顕彰式は、硫黄島において散華された日米両国の英霊を慰霊・顕彰して、その冥福を祈念することを目的として行なわれ、平成7年（硫黄島戦50周年）に第1回が開催されてから今回で21回目となり、当日は天候にも恵まれ、晴天の中での追悼顕彰式となった。

追悼顕彰式では硫黄島協会の寺本会長が「戦後75年の大きな節目に、万世の平和を一層強固なものにするため日米友好の絆を今一度、確認する」と述べた。また、米側は「互いに尊重することで命を落とし、傷を負った人々に敬意を表す」と退役軍人代表のノーマン・スミス元海兵隊中將の手紙を読み上げた。

旗手の34普通科連隊第5中隊 佐藤2曹と旗衛の同中隊峯竹3曹、斎藤士長は、先人への哀悼の意を胸に、凜とした姿で追悼顕彰式に参列し、約1時間に及ぶ式典の間、微動だにせず、旗衛隊の任務を完遂して国難に命を捧げた戦没者の冥福を祈った。

旗手の佐藤2曹は「戦後75年の節目に旗手として参加でき、光栄に思います。両国の国旗の下、先人の方々の敬意を払い哀悼の意を捧げ、互いに親交を深められたことは、私にとって貴重な体験となりました」と感想を述べた。



旗衛隊
左から斎藤士長・佐藤2曹・峯竹3曹



国旗を奉じる日米両国隊員

退官者紹介

第34普通科連隊



第4中隊
1等陸曹
筒井 真

第1戦車大隊



本部管理中隊
2等陸曹
森川 保之

隊員家族紹介

自衛官の妻として



第1後方支援連隊 補給隊 鳥居3曹 妻



テーマパークで仲良く1枚

自衛官である彼と結婚してから感じることは、彼を気遣う声や心配する声、応援の声を友人や会社の同僚から頂く機会が多い事です。共通の知り合いだけでなく、彼と面識のない方からもそういった声をよくいただきます。みんなが自衛官の方々に対して高い関心を持っているのだと実感しています。

救助を必要とする大災害が増えている昨今、彼も被災地に行く機会があり、安否が心配になってしまつてありますが、自衛隊の支援を感謝する被災地の方々の報道で目にする私まで誇らしい気持ちになります。

彼とは大学時代からの長い付き合いとなりますが、自衛官となると聞いた時は今までの一番驚きました。驚きと同時に戸惑いと不安もありましたが、自衛官の仕事に頑張り続けている彼はとてもかっこよくて尊敬しています。

先の見えない状況で自衛官の方々も大変だと思いますが、自衛官として働く彼を一番近くで応援し、支えていきたいと思っています。

隊員自主募集ご協力をお願い

一般職員補佐・自衛官候補生の応募資格が改正！

18歳以上33未満の男女

自分たちの「同僚・後輩は自らの手で」



悩み相談

心理相談（第1師団心理幹部）

法律相談（第1師団法務官）

倫理相談（第1師団法務官）

「うつ」隊員等のサポート

0120-1848-38

8-31-2215

8-31-2266

8-31-2265

0120-834-939



【お知らせ】

開館時間は平日の9時から15時までです。
お申し込みは2週間前までに
ご連絡下さい。